

2019 年 7 月 31 日

都道府県柔道連盟（協会）会長・安全指導員各位

重大事故総合対策委員会
委員長 磯村 元信



夏休みの重大事故防止について

平素より当連盟事業にご理解ご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。夏休みが始まり、合宿や他校との合同練習、練習試合が企画される時期となりました。また、暑さも一段と厳しさを増し熱中症に対する万全の備えも必要です。夏のこの時期に重大事故が発生する確率が一段と高まります。以下の重大事故防止の留意点を踏まえ、指導者の皆様には予防対策に一層のご配慮をお願い致します。また、生徒、保護者等にも周知徹底していただくようお願い申し上げます。

夏休みの重大事故防止の留意点

○熱中症を防ごう ※WBGT値が31を越えたら練習をやめよう

- ・温度と暑さ指数（WBGT）を常に把握し、予防指針を守ろう。
- ・こまめに休憩をとり、水分と塩分を補給しよう。
- ・個人の条件にも十分に配慮し、早めの対応で事故を防ごう。

○合宿、合同練習、練習試合での重大事故を防ごう

- ・休憩を十分に取入れた無理のない練習計画を立てよう。
- ・個人の体力、体格、技能に応じた練習内容、練習相手を設定しよう。
- ・特に、習い始めから6ヶ月未満の初心者練習相手には十分配慮しよう。

※初心者には他校の相手との乱取りや練習試合は行わせないようにしよう。

自校の指導者の指示で合同練習を見学していた初心者が、それを知らない他校の指導者に促され乱取りに参加して重大事故に至った事例が報告されています。

○苦しい時は「参った」する、「参った」の合図で攻撃をやめる、を徹底しよう

- ・苦しい時や無理な体勢になったら早めに「参った」をしよう。
- ・絞め技や関節技をかける場合、常に相手の状況を見ながら「参った」の合図があれば必ず攻撃をやめるようにしよう。

※重大事故総合対策委員会では、初心者の事故防止の観点から初心者向け練習プログラム（指導者用）、練習めあて（生徒用）を全柔連のホームページに掲載しています。これらを参考にして指導者と初心者の双方向からの事故防止を推進しましょう。